

旧吉田茂邸の再建について【修正案】

(提 言 書)

旧吉田茂邸再建検討委員会（大磯町）

1. はじめに

平成21年3月22日に、私たちの町、大磯町に戦前から存在し、第二次世界大戦後米国を中心とした連合国の占領下から我が国の独立回復を実現し、戦後復興に力を尽くし、7年以上に亘って総理大臣としてこの国の繁栄の礎を築き上げた吉田さんの邸宅が焼失してしまいました。敷地全体を県立都市公園として整備する計画がスタートする矢先のことでした。

私たちは、戦前、吉田さんが米国や英国との戦争に反対する立場から、当時のグルー駐日大使等に日本と日本人の真の姿を繰り返し説明し、これが結果として米国における激しい反日世論を鎮めたという事実を知るとき、今日の日本が存在することを可能とし、後に名誉町民ともなられた吉田さんと同じ土地で生活していることを誇りに思い、吉田さんが好んだこの町の魅力を後世に残していくために、最大限の努力をしていく覚悟があります。

この提言書は、大磯町区長連絡協議会、大磯町商工会及び大磯町観光協会の役員や、町内学識経験者など町民15名で構成する旧吉田茂邸再建検討委員会において、県立大磯城山公園の拡大計画区域内に存する本邸跡地に、実際の利活用イメージを踏まえて、どのような建物の建築を望むのかについて検討した結果を示すものです。

2. 旧吉田茂邸の利活用について

旧吉田茂邸は、吉田茂元首相が実際に住み、多くの戦後政治史の瞬間を目撃してきた空間であることから、町民のみならず多くの人々が訪れ、利用できるようにすることで、戦前戦後の日本が歩んだ歴史や近代政治を学ぶ教育の拠点になりうると考えます。

本邸西側の日本庭園に面した玄関ホールから入って、応接間棟の1階と2階部分、食堂、温室及び新館部分を有料見学ゾーンとして、精巧な複製品を含む調度品を配置するほか、利用者が吉田茂元首相と自らを重ねる気分をより深く味わうことができるように、一般見学とは重ならない時間帯又は日程で、時間貸しできるような利活用が相応しいと考えます。

また、数奇屋建築を独自に近代化した建築家であり、東京歌舞伎座の修復も手がけ

た吉田五十八氏設計の本邸部分は、これを忠実に再現することによって町内に点在する歴史的建造物や庭園などをめぐる観光拠点、邸園文化圏再生構想の中核施設として町の魅力を高めることにつながると考えます。

建物の中央に位置する旧館部分や、梅林、竹林、松籟の庭に面した部分は、来園者が気軽に休憩できるお休み処や、地域の交流を図るための各種集会や研修施設として利活用することが相応しいと考えます。

3. 旧吉田茂邸の再建について

県立大磯城山公園の拡大区域内に存する本邸跡地に建築する建物については、構造・規模ともに焼失前の旧吉田茂邸と同等の再建を望みます。

特に、心字池のある日本庭園に面した部分と「金の間」や「銀の間」も含む吉田五十八氏が手がけた本邸及び新館部分は、兜門（講和門）から入って、心字池のある日本庭園から眺めたときに、庭園と一体となった佇まいの秀麗さに魅力があり、町民のみならず多くの人に見学していただきたいと思えます。

また、この部分は、吉田茂元首相が過ごした空間をより身近に体感し、部屋を利用することによってその息遣いを肌で感じることでできる施設として活用していくうえで不可欠なものとなることから、焼失前の部材と同じ種類の良質な木材を使い、仕様についても忠実に再現して、将来の文化財指定をも視野に入れた再建をすることを望みます。

4. 町の役割について

県が主体となって、焼失前の旧吉田茂邸の姿を実現可能な範囲で再建することが成就された暁には、この建物が県立都市公園の最重要建築物となるばかりでなく、大磯町民にとっても町の魅力を高める重要な拠点になるという事実を鑑み、町民の意向を反映しうる状況を実現するためにも、町が維持管理に一定の役割を負っていくべきであると考えます。

また、再建費用についても、町から全国に再建費用に充てるための寄附金を呼びかけ、町ができる県への協力姿勢を一刻も早く表現するべきであると考えます。

平成21年6月30日

大磯町長
三好正則 殿

旧吉田茂邸再建検討委員会

委員長

副委員長

委員

委員

委員

委員

委員

委員

委員

委員

委員

委員

委員

委員

委員